

目 次

日本ウマ科学会第33回学術集会（WEB開催） シンポジウム	
2020年11月30日～12月10日	
テーマ：小格馬やおとなしい乗用馬の積極的利用について考えよう！ 一馬の多様な利活用を推進する一	
コーディネーター：南保泰雄（帯広畜産大学）	1
講演	
在来馬の現状と馬事文化財団における取組み	山野辺 啓 2
障がい者乗馬の普及と発展	山口 洋史 7
凍結精液の現状と乗用馬生産の展望	山下 大輔 12
受精卵移植による馬の生産法確立と展望	南保 泰雄 17
書籍紹介	22
Journal of Equine Science Vol. 32 No. 2, June 2021 和文要約	23
お知らせ	26
協賛団体名・賛助会員名簿	27
編集後記	

Hippophile No. 85

- 編集委員 -

編集担当常任理事・編集委員長	楠瀬 良（日本装蹄協会）	
編集委員	相川 貴志（地方競馬全国協会）	関 正喜（ジャーナリスト）
	荒川由紀子（農林水産省）	永井富美子（エディター）
	有吉 正徳（朝日新聞社）	沼田 恭子（NPO 法人引退馬協会）
	北野あづさ（日本馬術連盟）	古林 英一（北海学園大学）
	木村李花子（東京農業大学）	三浦 暁子（エッセイスト）
	近藤 誠司（北海道大学）	守谷 久（ジャーナリスト）
	近藤 高志（JRA 競走馬総合研究所）	山口 洋史（元全国乗馬倶楽部振興協会）
	末崎 真澄（馬の博物館）	山下 大輔（日本馬事協会）
	杉本 篤信（元地方競馬全国協会）	

表紙絵：騎手（The Jockey）：アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864-1901）1899年 49.8×34.1 センチ多色刷り
リトグラフ 馬の博物館蔵

「騎手」は、晩年に近い療養中に一連のサーカスシリーズとともに表した作品である。ロートレックは、少年の頃に父親とともに乗馬をし、競馬場にもしばしば通った経験があり、晩年に再びその情景を思い巡らしている。後ろ姿の騎手は、あるいは馬と競馬を愛した父と自分の姿を映し出しているのかもしれない。